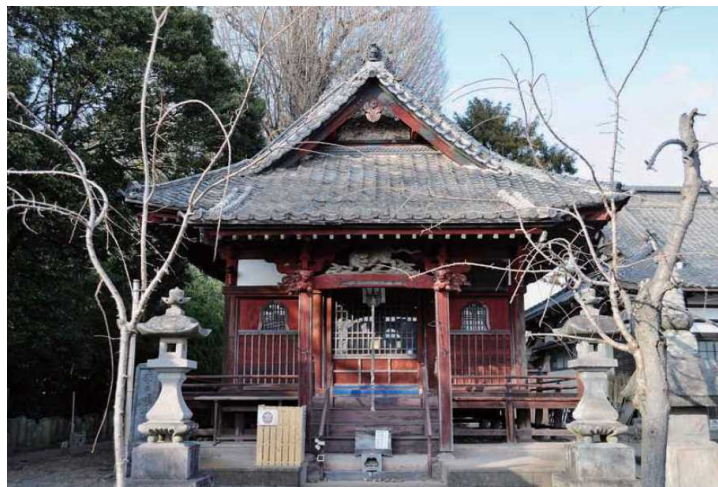


# 長慶寺社寺彫刻シンポジウム



長慶寺薬師堂内厨子



長慶寺薬師堂厨子正面

北関東を中心に活躍した上州花輪村の石原吟八郎及び門下の彫刻師たちの存在は、国宝「歓喜院聖天堂」との関連から近年注目を集めています。長慶寺における薬師堂もその系譜上の建造物として調査が進められています。社寺彫刻を美術工芸品の領域にまで到達させた名工たちの協演に想いを馳せながら、地域の文化財を知るシンポジウムを開催します。

日時：令和元（2019）年12月8日（日）午後2時～午後4時

会場：長慶寺本堂（埼玉県熊谷市西城93-1） **入場無料**

1. 開会・趣旨説明 長慶寺 安井俊隆 住職
2. 報告「国宝『歓喜院聖天堂』を拠点とした彫刻師の系譜」  
熊谷市立江南文化財センター主任（学芸員） 山下祐樹 氏  
（埼玉建築士会歴史的建造物保全活用専門家・ヘリテージマネージャー）
3. シンポジウム「北関東社寺建築・彫刻の調査研究をめぐって」  
パネリスト 一級建築士・ヘリテージマネージャー 小島恵理子 氏  
社寺彫刻研究者 今井玲子 氏 同報告者 山下祐樹 氏 ほか

## 長慶寺の概要

高野山真言宗寺院の長慶寺は、南北朝時代、永和2年(1376)、僧の慶弘が来山し、真言密教の道場に相応しい浄域と感じ、伝行基作の薬師如来像を祀り霊場を開創。浄瑠璃山と号し、薬樹院長慶寺として創建されたと伝わります。以来、薬師尊を中心とした修行道場となります。江戸時代に入り、薬師尊の修繕や伽藍の改修などが地元の庶民の協力により施工されました。享保18年(1733)には、妻沼聖天山本殿「歓喜院聖天堂」などを手がけた棟梁 林兵庫正清に依頼し、上州花輪村彫物師 石原吟八郎、板坂伊平次、新井孫四郎などの合作による御堂の建立が確認されています。また寺のシンボルでもある樹齢570年(鑑定)を超える大いちょうは圧巻です。

アクセス：JR熊谷駅より車で約20分

熊谷市ゆうゆうバス：ムサシトミヨ号・グライダー号  
(バス停「西城就業改善センター入口」下車 徒歩2分)

主催・問合せ：長慶寺 電話 048-588-2006 FAX 048-589-0109

(報告・シンポジウム内容：熊谷市立江南文化財センター 電話 048-536-5062)